

発行
 北海道ポーランド文化協会
 〒001-0032
 札幌市北区北 32 条
 西 5 丁目 2-31-902
 佐光方
 電話・FAX
 011-790-8610

POLE

第 68 号 2011.2.1
 北海道ポーランド文化協会会誌



Nieznany malarz: *Frédéric Chopin*, nie datowany, olej.



— 海外研修 2010 年『第 16 回ショパン国際ピアノコンクール』—

第 3 次予選を鑑賞して — 報告と感想 —

水田 香

ショパン生誕 200 年祭で世界中が盛り上がる昨年の 10 月、『第 16 回ショパン国際ピアノコンクール』鑑賞のため出かけることになりました。きっかけは友人同士の冗談、行く？行かない？の会話に始まり、「生誕 200 年の今年、ショパン博物館が新しくなりました！」のニュースに、「行くのは今」と思い立った次第です。



ショパンコンクール
 審査員席の様子

雪でも降りそうな寒さの中、古都のクラフで手に入れ羽織ったショール、その民俗衣装風な濃い青の縁取りを見ながら今でも心に思うのは、「歴史の偶然性」と「世界を

身近」に感じた事実です。

短いながらショパンの故郷ポーランドの滞在中に感じた事、コンクールの第 3 次予選(10 月 13 日から 3 日間)20 名の演奏を聴いた印象をお話ししてみましょう。

ショパンの資料が充実

ポーランド到着の翌日、ショパンの生家や洗礼を受けた教会、彼の文化性を育てたワルシャワの街、新しく整備されたショパン博物館を訪ねました。今まで国内に散在していた資料や楽譜を 1 か所に集めて保管、専門的な研究資料を提供する一方で、一般市民への普及活動にも努めています。

貴重な資料は時代別にコーナーに区切って最新式の電子ブックを使って展示、引き出しを開けると収納の楽譜通りに音が流れる電子機器も備えられ、ショパンの音楽を容易に体感できる仕組みになって

います。「小学生向き」の特設コーナーには、ショパンの生涯が分かり易く(視覚的に)展示され、引率者と小学生の集団が入れ替わり立ち替わり見学、若い人への教育に余念がありません。ポーランドの取り組みの熱心さに感心したものです。

歴史の偶然性を感じる

ワルシャワやその近郊の気候は道央そのもので、親しみのある木々や植物に囲まれた広大な公園の一角に生家があります。新しく整備された屋内には当時の暮らし振りが美しく再現され、庭にオープン可能な部屋は演奏会を開くことができる設えになっていますが、周辺は今なお緑豊かな農村地帯、ワルシャワからバスで 40 分以上もかかります。もしも父親がワルシャワの貴族の館で教育の仕事に就かず、ショパンがこの地域で少年時代をずっと過ごしたなら、伝記に語られる様な少年時代 — ピアノを弾いては即興的に曲を生み出し、外国から来たオペラを見ては感激してピアノ作品に取り入れる — 事は起こらなかったでしょう。他の作曲家、例えばモーツァルトやベートーヴェンには強烈な面 — どの様な環境にあっても作曲活動を続ける — を感じますが、ショパンの場合、ピアノとワルシャワとの出会いが無ければ、恐らく多くの作品を残さなかったでしょう。またウィーンへの演奏旅行が一転して亡命生活に変わると言う事が無く、あの時再びポーランドに戻って平凡に暮らしたなら、「バラード」「ソナタ」「マズルカ」等の複雑な心情を



会場前の様子
 北海道からの同行者と共に

語る作品は書かなかったと思うのです。当然、現代において世界中が注目する「ショパン国際ピアノコンクール」も生まれなかったという事になります・・。

世界が身近になった瞬間

・ **会場** 日頃オーケストラの演奏会が行われるワルシャワ・フィルハーモニアホールは街の中心地、ビル街の仲通りにあり、見つけるには少々苦勞ですが、玄関前に掲げられた国旗が国際的な雰囲気を盛り上げています。「背の高い黒い鉄柵や大理石で作られた重々しい階段、とても格調高いホール・・」。しかし、その玄関前では、気取らない格好の係りが、毎日段ボールからコンクールのニュース速報(演奏批評とカラー写真入り)と演奏 CD を取り出しては誰にでも無料配布する、その拘りの無いフリーな発想に、とても感心しました。

・ **舞台** 左右一杯に大きな赤い花が形作られ、その手前に *Chopin* の白く大きな文字が掲げられています。多分ショパン自筆サインの拡大でしょう。舞台に彩と晴れがましさを添えています。演奏開始直前に演奏者の名前、プログラム、演奏者自らが選んだピアノの機種がアナウンスされます。客席のどこからも演奏者が身近に感じられる舞台の高さで、コンクールという事を忘れさせる雰囲気です。今回からイタリアのピアノ『ファツィオリ』が使用機種に入りました。ピアノ自体が歌っているような美しい響きを感じます。

・ **観客** 会場は毎日、午前と午後で客席を入れ替えますが、常に会場内には日本人が多く、ロシア人の演奏の時には明らかに先生風な集団が現れ、ポーランド人の演奏時間帯にはドレスアップをした観客が多くなり、大きな拍手と声援で演奏者を盛り上げました。

・ **審査員の様子と観客** 第3次予選初日、我々の席は審査員席 2 階のすぐ右手、審査員団入場の途端、そこに至るまでの疲労の大きさが手に取るように分かりました。それを労わるかの様にテーブルにはチューリップでしょうか、黄色の花束が美しく飾られています。世界の名演奏家、名教師であるヤン・エキエル、アルゲリッチ、ハラシェヴィッチ等に加え、アジアからダン・タイソン、フー・ツォン、日本の小山実稚恵氏の参加もあり、とても親近感を持ちました。

・ **コンクールの演奏について** 第3次予選では約1時間の課題を休憩を取ることなく弾き続けます。「ソナタ」と「幻想ポロネーズ」を含め、事前申請曲目中、演奏していない作品を組み合わせるため、「マズルカ」「ポロネーズ」「バラード」「スケルツォ」「エチュード」「プレリュード」等の作品が聴け、多様なプログラムが楽しめます。「日本人の第2次通過者は0」との

ニュースを当地で知り、皆・・・、しかし、その分、各国の演奏者を冷静に観察することができました。

ロシア勢の演奏は共通して音楽の構成とテクニクが強固、それに均整のとれた音楽性と各々の個性が加わります。ポーランド男性 2 名の演奏は控え目ながら、1 つの音、1 つの休符にもショパンに対する思い入れの深さが感じられ、イタリア人のショパンには歌心が溢れています。「ソナタ」2 曲と「幻想ポロネーズ」を並べた強靱なテクニシャンのアメリカ人女性、大変にエレガントで洒落たショパンを披露したフランス人も・・。東洋系の方は和声感が希薄ながら集中力が抜群で、複旋律の多層構造を面白く表現。この様に各国の期待を背負う若手ピアニスト達が、「世界の頂点に通じる扉を必死で開こうとしている」真剣な姿をリアルタイムで見ること、世界との距離感が一気に縮まり、最後にはどの国のピアニストも応援したい、と思う経験をしたのです。

・ **結果発表の様子** 第3次予選通過者(本選で協奏曲を演奏できる人)の結果発表を待つ間、終始笑顔でプレスの質問に答え、市民のサインに応じるロシア人達は自信に溢れ、今回優勝のユリアナさんも例外ではありませんでした。結果はロビーでアナウンス。やはりロシア勢は強かった！！

第3次予選通過者
結果発表を待つロビー



世界に音楽を発信できる人を育てる

今は世界の情報がパソコンで即座に手に入る時代です。すでにコンクールの結果とすべての演奏もインターネット上で公開されていますが、実際に「見て聴く」事は、単に知識を得る以上に大きな意味があると、今回の海外研修で実感できました。

私は日頃、ピアノ演奏の仕事を目指す学生達の指導に当たる毎日ですが、今回の経験をきっかけとして、新たな目標とエネルギー —世界に音楽を発信できる人を育てる— を得た事が大きな収穫だったと言えるでしょうか。今後、学生達と頑張りたいと思います。

みずた・かおり

(北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース教授)

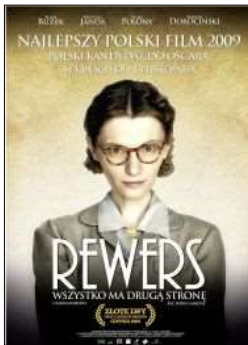
【ショパン・コンクールの結果】

ユリアナ・アヴデーエワ (1位 ロシア) Yulianna Avdeeva
ルーカス・ゲニューシャス (2位 ロシア/リトアニア) Lukas Geniušas
インゴルフ・ヴンダー (2位 オーストリア) Ingolf Wunder
ダニール・トリフォノフ (3位 ロシア) Daniil Trifonov
フランソワ・デュモン (5位 フランス) François Dumont

Wybór filmów polskich współczesnych

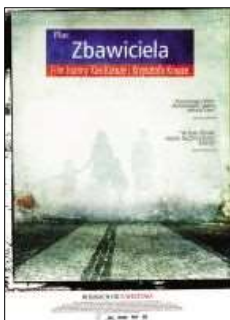


ポーランド
現代映画
セレクション
2004-2009



『裏面』(2009)96分
ボリス・ランコシュ監督

▼2009 年度ポーランド
劇映画祭グランプリ受賞
作品。30歳サビナは、文
芸出版局の詩編集部に勤
務。祖母、母と女性ばか
りの三人暮らし。スター
リン時代をブラック・コ
メディ風に描いた佳作。



『救世主広場』(2006)105分
ヨアンナ・コス＝クラウゼ、
クシシュトフ・クラウゼ監督

▼2006 年度ポーランド劇映
画祭グランプリ受賞作品。
『ニキフォル 知らされる天才
画家の肖像』の監督が妻と共
同監督した。

4月16日～17日
北大学術交流会館

<会員には招待券を一枚プレゼント！>

当日 一般1,200円/ シニア1,000円/学生500円

前売り 一般・シニア/1,000円

主催：上映実行委員会
(北海道ポーランド文化協会・札幌映画サークル)

協賛：駐日ポーランド共和国大使館

アンジェイ・ワイダ『カティンの森』、ケ
シロフスキ『トリコロル』など優れた監督
の名前でよく知られたポーランド映画。

近年では、ポランスキの『戦場のピアニ
スト』、スコリモフスキの『アンナと過ごした
4日間』などが話題になりました。

今回は、ポーランド大使館のご協力
で、現代のポーランド映画を代表する作
品をご紹介できることになりました。2004
年から2009年に制作された、どれもその
年を代表する名作、話題作(北海道初公
開)ばかりです。

上映作品については、チラシや POLE
を通じて詳細をお知らせします。是非ご友
人ご家族と一緒にお願いします。

今回上映する4作品からさらに人気の高
かった作品を秋の大規模なポーランド大
使館との共催イベントでも取り上げる予定
です。お楽しみに。

(上映実行委員長 佐光伸一)



『あなた、嘘をつかないで』
(2008)100分

ピョトル・

ヴェレシニャック監督

▼『ぜったいにダメ!』の成
功を受けて、ウェブコフスカ
が書いたオリジナル・シナリ
オの映画化。ありえないは
ずの恋が運命的な恋だっ
た。傑作ロマンティック・コメ
ディ。ラストに某有名人が特
別出演。



『ぜったいにダメ!』
(2004)100分

リシャルト・ザトルスキ監督

▼人気女性作家グロホラの
原作を、恋愛コメディに
定評のある女性シナリオ・ラ
イター、ウェブコフスカが脚
色。映画も大ヒットした。



「ポーランド現代映画セレクション 2004-2009」 新年を向かえ、いよいよ具体的になって
きました。まだまだ、進化します。試写会、ポーランド人による講演、学習会など交渉・企
画中。堪能していただきます。一緒に活動してくれる実行委員を募集中！(氏間まで)

<詳細は追ってお知らせします>

総会、 開催される



2010 北海道ポーランド文化協会 総会・懇親会（於かでる 2・7）

2010年10月31日(日)に当協会の第25回総会および懇親会を開催いたしました。懇親会には、在札幌のポーランド人も多数参加してくださいました。

日本人がポーランド人にポーランド国歌を教わり、代わりにポーランド人に札幌オリンピックの歌「虹と雪のバラード」を日本人が教えるという歌の交換を行い、大変楽しい集まりになりました。今年いらっしゃれなかった会員の皆様もぜひ来年はお越しください。



赤ちゃんも一緒に参加

総会で決定しましたことを、以下にご報告させていただきます。ご意見ご質問などございましたら、お気軽に事務局までお問い合わせください。

第Ⅰ議題 2010年度事業及び決算報告、監査報告

《主催事業》

- 1) ピアノコンサート(大使館との共催)/入場無料
2010年2月6日(土)/ザ・ルーテルホール
「"ショパン in Hokkaido"〜ショパン生誕200年を記念して 駐日ポーランド大使館・北海道ポーランド文化協会共催コンサート」
出演: 坂田朋優さん他<ピアノ>
松井亜樹さん<声楽>
- 2) <第54回例会> 映画上映会(大使館との共催)
作品『ニキフォル 知られざる天才画家の肖像』
2010年2月6日(土)/シアターキノ /入場無料
- 3) コンサート「Concert ショパン生誕200年記念」
2010年6月18日(金)/札幌サンプラザコンサートホール/入場料:2000円

《ポーレ発行》第66号(2009年12月)

第67号(2010年9月)

《第24回総会》2009年11月27日 かでる2・7

《2010年度決算報告》【参考資料上段】をご参照。

《監査報告》2010年10月25日に2010年度の会計処理について監査を実施したので報告いたします。

第Ⅱ議題 2011年度事業計画(案)予算(案)について

《主催事業》

- ・《例会》
- ・《ポーレ発行》年3回
- ・《第25回総会》2011年10月頃
- ・《運営委員会》定期的に開催

《2011年度予算(案)》【参考資料下段】をご参照。

第Ⅲ議題 2011年度役員選出と役割再編について

【会長】安藤厚

【副会長】小笠原正明・霜田千代麿

【顧問】遠藤道子

【監事】小林暁子/吉野悦雄

【事務局長】佐光伸一

【副事務局長】栗原朋友子

【事務局委員】ラファウ・ジェプカ

【会計】氏間多伊子

【運営委員】安藤むつみ/薄井豊美/柏木由美子/越野剛/小林美保/斎田道子/佐々木保子/高橋健一郎/富山信夫/中島洋/三浦洋

【ポーレ編集委員】氏間多伊子/栗原朋友子/越野剛/小林美保/佐光伸一/ラファウ・ジェプカ

【演奏部会】安藤むつみ/ウィリアムス美由紀/小林美保/本田真紀子ほか

1) 運営委員の権限の強化と役割の細分化、運営委員会の充実:「例会」担当、「運営委員会」担当など役割をわかりやすくする。担当は毎年交代、それぞれの担当が企画、告知、運営を行う。

運営委員会を定期的に行う。例えば2カ月に1回。「運営委員会」担当が組織する。

2) 連絡網の確立:メールの一括送信と電話連絡について

第Ⅳ議題Ⅳ その他

1) 会則の変更

変更点:会則に事務局の住所を記載。

2) ホームページの作成について

佐光 伸一(さみつ・しんいち/事務局長)

【参考資料】

2010 年度収支計算書

(自 2009 年 10 月 1 日～至 2010 年 9 月 30 日)

【収入の部】	予 算	支 出 内 訳	(単位:円)
会 費	200,000	146,320	全額の 60%
その他	0	0	
小 計	200,000	146,320	
繰越金	232,566	232,566	
合 計	432,566	378,886	
【支出の部】			
事業費	120,000	150,061	例会、総会
連絡費	60,000	59,080	ポーレ発送,はがき・切手他
編集費	30,000	12,905	ポーレ制作費, 文房具等
会合費	20,000	0	コンサート委員会会合費
事務費	10,000	10,000	人件費
予備費	20,000	0	
小 計	260,000	232,046	
繰越金	172,566	146,840	
合 計	432,566	378,886	

2011 年度会計予算書

(自 2010 年 10 月 1 日～至 2011 年 9 月 30 日)

【収入の部】	前年度決算	今年度予算 内 訳	(単位:円)
会 費	146,320	200,000	
その他	0	0	銀行利息・寄付
小 計	146,320	200,000	
繰越金	232,566	146,840	
合 計	378,886	346,840	
【支出の部】			
事業費	150,061	120,000	例会、総会、ピアノコンサート
連絡費	59,080	40,000	ポーレ発送,はがき・切手他
編集費	12,905	10,000	ポーレ制作費, 文房具等
会合費	0	20,000	運営委員会他
事務費	10,000	10,000	人件費
予備費	0	20,000	ホームページ制作
小 計	232,046	220,000	
繰越金	146,840	126,840	
合 計	378,886	346,840	

私はこの 2 年間、ポーランドの西部の町、ポズナン市に住んでいる者だが、かつて北海道大学で学んでいたことから、札幌とも縁が深い。

また、東京外国大学のポーランド学科にいた時には、ポーランド政府の奨学金をもらい、1998 年から 2000 年にかけてクラクフ市に留学することができた。現在、ポズナン市のアダム・ミツキェヴィチ大学と外国語大学で教えていながら、ポーランド人がいかに日本を見ているか、そしてポーランドがどのように変わったかを興味深く眺めている。そこで、変わりゆくポーランドの現在について報告を勧められた切っ掛けもあり、喜んで筆を執ったものである。

1. 「実験」

今年のクリスマス・イヴの日の午後、スーパーで買い物をした。レジで私の前に並んでいた婦人は、大きくて厚手の透明なビニール袋に、生きたままの鯉を入れて持っていた。袋にはバーコードが付いていて、鯉の代金を難なく清算すると、恐らくは我が家へとその婦人は帰っていった。

ポーランドの伝統的なクリスマス休暇は、クリスマスの数日前から始まる。会社も学校も早々にクリスマス休暇に入り、人々は、年に一度の大切な行事に向けて、お金と時間を惜しまずに、それこそ気合を入れて準備する。——ツリーのための唐檜や樅の木を買ってきて、飾り付けをする。イヴの晚餐用の鯉を生きたまま買ってきて、食べるまでのあいだ浴槽などで生かしておく。もちろん、プレゼントを買うのも忘れてはいけない。それから、家中の大掃除をする。イヴの晩



クリスマスの鯉料理

も含めて、クリスマスの祝日 期間中になるべく料理をしなくて済むように、前もってご馳走を作ったり、ケーキを焼いたりする。こうして町全体がどことなく慌ただしく、昂揚感と陽気さの入り混じった独特の雰囲気包まれる。これは、昔も今も変わらない。10 年以上も前に私が初めて経験したポーランドのクリスマスでも、今年のクリスマスでも、同じように繰り返されている風景である。

ただ、私が留学していた頃には、もうイヴの日からほとんどの商店が営業していなかったように思う。当時、ポーランドの伝統をまだ知らなかった私は、日本にいた時と同じ感覚でクリスマスを迎えようとして、大失敗をした。というのも、祝日 期間中の食料を買い置きしておくのを忘れ、いざクリスマスを迎えてみると、町中が閑散と静まり返っているのだ。イヴから 26 日までのあいだ、商店が完全に休みだったため、手許に食べる物がなくて、大いに困ったものである。

現在のポーランドでは、学校はともかく、会社がク

—— ポーランドだより ——

変わりゆくポーランド

ポズナン市在住の（当協会特派員？）から届
ポーランドでの クリスマスの重要性が感じ

クリスマス休暇に入るのは年々遅くなっているようだ。そして、ほとんどの商店がイヴの日の夕方まで営業している。中には、「クリスマス・プレゼント 119 番」といった広告を大々的に掲げて、駆け込み需要を狙い、イヴの遅い時間まで営業しているデパートもある。イヴの日には、日中の食事の量を減らすという断食の伝統があり、晚餐までは満腹となる食事を摂らない。このような断食が義務づけられているのは、現在のカトリック教会では、年に 2 日、すなわち灰の水曜日と聖金曜日だけで、イヴの日については特に定められているわけではない。しかし、クリスマス・イヴがポーランド人にとって、灰の水曜日や聖金曜日に準じて特別な日であることを表す伝統として、カトリック教会も勧めているようだ。今日、この伝統がどれだけ守られているかは分からないが、日が暮れ、一番星が輝き出す頃になって、ようやくイヴの晚餐が始まる。日中の空腹を抱えての、待ちに待った晚餐である。

イヴの晚餐では（もちろん晚餐だけでなく、イヴの日のすべての食事で）、伝統的に肉を食べない。これも、現在のカトリック教会では、特に義務付けられているわけではなく、毎週金曜日の小斎と同じような食事をするので、この日がいかに特別であることを示している。そして、肉の代わりに鯉の料理を食べるのが、ポーランドのイヴ晚餐の習慣になっている。そこで、今でもクリスマスが近づくと、町のあちこちのスーパーで鯉が売られる。店内に特設の生け簀が作られ、客は生きたままの鯉を買っていく。

ただし最近では、若い夫婦を中心に、新しいクリスマス料理を試している家庭も多い。肉を食べないという伝統は守りつつ、しかし鯉ではなく、例えば海老や貝を使った料理を作って、いつもとは一味違った雰囲気を楽しんでいるようだ。イヴの数日前から郵便受けに投げ入れられる多くのスーパーのチラシにも、



クリスマスイヴのポーランドの食卓

鯉と並んで、昔では考えられないほどの豊富な種類の魚貝類が、派手な写真付きで安売りされている。

ドのクリスマス休暇

いたホットな情報！新しい形で広がる伝統に、
られるお話でした。 津田 晃岐

二人で過ごし、晚餐の料理は「実験をしてみた」と誇らしげに語っていた。中には、寿司を作って食べたという日本通のポーランド人もいる。

晚餐の席では、家族全員が聖餅(oplatek)を分かち合い、互いに相手の聖餅を割り取りながら、相手のために願い事をし、互いに食べ合う。そして、皆で晚餐を食べる。伝統的には、12種類の料理が食卓に並べられる。イヴの晚餐が終わり、お腹もすっかり落ち着くと、夜中の0時を待って、クリスマスの深夜ミサへと出かける。そして、その後は家へ帰って、温かいベッドにもぐり込み、翌日、クリスマスからは、七面鳥などの肉料理も含めて、ご馳走を食べまくる。

クリスマス休暇のうち、少なくともイヴから26日までの祝日期間は、家族と一緒に過ごすのがポーランドの伝統である。時には夫婦と子供だけでなく、祖父母、兄弟姉妹、叔父叔母、従兄弟姉妹も一つの家に集まり、大勢で賑やかに過ごす。しかし、「実験」をした友人夫婦に限らず、特に若い世代では、祝日期間中に両親や親戚の家を訪ねることはあっても、挨拶がてら顔を見せる程度で、イヴとクリスマスは同居する家族とだけ、のんびり祝う場合が増えている。私の教えている学生も、彼らのおよそ半数は両親とだけ今年のクリスマスを過ごしたと言う。大所帯での賑やかなクリスマスは、こうして少しずつ減ってきているようだ。

クリスマスが終わると、今度は年越しのパーティを盛大に祝う。学生の多くは下宿先へ戻り、友達と一緒に夜通しで大騒ぎをする。これも昔と変わらない風景だが、今では、実に様々な種類の花火が店々で売られている。そして、年越しの瞬間には、町の至る所で色鮮やかな花火が打ち上げられ、我が家のバルコニーからも綺麗に見物することができた。

2. 新しい伝統

ところで、私の住んでいるポズナン市には、クリスマス・イヴにまつわるちょっと面白い伝統がある。

この町出身の女流作家マウゴジャタ・ムシエロヴィチの作品に、「ノエルカ」という小説がある。ポズナンの町を舞台にして、1991年のクリスマス・イヴの一日に17歳の少女エルカの周囲に起こった出来事を、温かみとユーモアのある言葉でつづった作品である。

祖父メトディと大叔父ツイリルはエルカから、町の中心にあるロータリー交差点の地下通路で、自分の

描いた絵を売っている老婦人に会ったことを聞く。このロータリー交差点は「 Rond・カポニェラ」と言い(小説の中では「コペルニクス・ Rond」と呼ばれている)、

ポズナン市の中心部にあり、その地下は通路になっているだけでなく、キオスクなどの様々な商店が並び、時には露天商が店を出していることもある。イヴの過ごし方をめぐってエルカが癪癪を起し、家を飛び出していった後、メトディとツイリルは、自宅に用意していたイヴの晚餐の料理を、エルカの父グジェゴシュと一緒に、「 Rond」の老婦人の許に運んでくる。そして、年老いた兄弟は、若き日の憧れの女性テルペントウラと再会する。

「ちと待った！」とメトディは命令するように言った。財布を取り出し、その中から折り畳んだ紙を取り出した。紙の中には2枚の四角い聖餅が入っていて、それもすぐさまメトディはテルペントウラと、そして自分の



Rond・カポニェラ

兄弟と割り合った。グジェゴシュには、当然、一番最後に近づいた。

二人は聖餅を割り合い、しっかり両方の頬にキスをし合った。

が、その後は、相手のための願い事をする言葉がさっぱり出て来なかった。毎年のものである。さいわい、ちょうどテルペントウラが嬉しい願い事をしながら近づいてきた。そこで、グジェゴシュは彼女の手をキスすると、彼女も彼の額にチュッとした。ツイリルは、どういうわけかとても感動していて、どうしていいのか分からず、聖餅を持ったまま彼らの周りを二度回った。それから突然、聖餅をテルペントウラの隣で商っていた小奇麗なヴェトナム人達と分かち合い出した。彼らはとても驚いて、嬉しさまじりもびっくりしながら、彼の仕種を受け入れたので、可哀そうな伯父は、この古代ポーランドから今日に至るまでのイヴの伝統について長々とした説明をする気になった。

(マウゴジャタ・ムシエロヴィチ「ノエルカ」津田晃岐訳)

こうして、入念に準備された団欒の家庭ではなく、寒々とした「 Rond」の地下通路に、ポーランドのイヴの伝統が突如として現れ、周囲にいた見知らぬ露天



Rondの地下通路

商たちをも巻き込んで、ごく自然に広がっていく。

この小説が発表されたのは1992年だが、以来、ポズナンでは毎年クリスマス・イヴの夜、ムシエロヴィチのファンを中心に、市民が「ロンド・カポニェラ」の地下通路に集まり、一緒にクリスマス・キャロル(koleda)を歌い、互いに聖餅を分かち合う。相手の聖餅を割りながら、その人のために願い事をし、割り取った分を互いに食べ合っていく。見知らぬ者同士がクリスマス・イヴの一時を共有し、聖餅とともに願い事をも分かち合うという、文字通り寒い中にもとても心温まる伝統である。今後も続いてほしいものである。

3. 新しい休日

こうしてポーランドでは、年越しのパーティの後、正月の三箇日を待つことなく、早々に日常へと戻る。会社が再開し、学校も始まる。少なくとも、それがこれまでの伝統だった。ところが、今年は少し事情が違った。

クリスマス休暇が明けて間もない1月6日——この日が今年 2011 年から、国家の休日となったのだ。1月6日というのは、「公現祭」あるいは「顕現節」、「主顕節」とも呼ばれるカトリック教会の祭日で(国によっては、必ずしも1月6日に祝わない場合もある。例えば日本のカトリック教会では、1月2日から8日までの間の日曜日に祝うことになっている)、東方の三博士による幼子イエスへの訪問と礼拝を記念する日である。

この祭日は、1960 年まで国家の休日として祝われていたものだが、当時の共産主義政府によって廃止



「三博士の祝日」に
関し、憲法裁判所に請願を提出したことを伝える「レヴィアタン」のホームページ。

2 てしまった。もちろん、休日でなくなった後も、祭日体はずっと教会で祝われてきた。1989 年の民主化から、ポーランドのカトリック司教協議会は毎年、この祭日を国家の休日に戻すように働きかけてきたのだが、様々な理由により、これまでは実現しなかった。ところが今年(正確には、去年 2010 年 9 月の国会で)、この1月6日を「三博士の祝日」として国家の休日にする法律が可決され、その後、大統領が公式に署名したことから、突如、新たな休日が出現したのである。まさに青天の霹靂の出来事だった。国民は新しい休日をおおむね歓迎しつつも、「どうして今になって突然可決されたのか?」、「なぜ 9 月に決まった

ものを 1 月から性急に導入するのか?」という驚きや疑問も拭えない。中には、露骨に戸惑いや動揺を表している者もいる。現に、この新たな休日の突然の出現は、至る所で影響を及ぼしており、少なからぬ混乱を引き起こしている。

例えば、私が教えているアダム・ミツキェヴィチ大学は国立大学なので、国家の休日を遵守しなければならないのは、当然である。しかし、法律が可決され、その発効が決まった時には、すでに新年度の時間割が定められた後、しかもそれを発表してしまった後だった。そこで、学期の半ばになって急遽、一学期の最終火曜日に木曜日の授業を行うべしという学長の決定が出された。というのも、今年の場合 1 月 6 日が木曜日で、授業が予期せず休講となってしまったからで、火曜日が終日「木曜日」となってしまったのだ。これには、先の独立記念日(11 月 11 日)が同じく木曜日で、やはり国家の休日であったために授業ができなかったことも関係しているかもしれない。

そして、混乱はまだ続いている。この1月19日に、ポーランド民間企業家連盟「レヴィアタン」が法律の違憲性の審理を求めて、ポーランド憲法裁判所に提訴したのである。連盟によると、この法律は、「公的権力機関は法令に基づいて、法令の範囲内で活動すること、そして「ポーランド共和国は批准した国際条約を遵守する」ことを定めた憲法に違反していると言う。ここで問題になっているのは、バチカンとポーランドの間で結ばれた政教条約で、そこには1月6日が休日として含まれていない。また、今回の法律はバチカンとの「合意」なしに制定されたい。さらに、クリスマスと年越しパーティには出費を惜しまず、盛大に祝う伝統があるポーランド人にとって、クリスマス休暇直後の1月6日が休日となったところで、財布の紐はすでに固く、経済効果はあまり期待できない。そのうえ、企業が休業することでポーランドの国際競争力が低下し、投資家にとってもポーランド市場の魅力が削がれることになると連盟は強調している。

審理はまだ始まっていない。裁判の行方は今後見守っていきたいが、ポーランドの変化をまざまざと見せつけられた一幕であった。

つだ・てるみち(ポズナン外国語大学講師)

【編集部より】

津田さんのエッセイで紹介されているマウゴジャタ・ムシエロヴィチ著『ノエルカ』は田村和子さんの翻訳で未知谷から出版されています。素晴らしい小説ですので、ご興味をもたれた方はぜひお読みください。



「ノエルカ」日本語版



「シヨパン生誕二百年記念俳句俳画展」オープニングに参加 (2010.10.14)

シヨパン生誕二百年記念

俳句俳画展に 参加する

ワルシャワ・ウッジ・オスロ訪問の旅
～2010年10月13-20日～

依田 明倫

俳句俳画展の話ポーランドの吉田勝一さんからうかがった折。旧知の方々を歴訪と思った。

だが若い俳句仲間は、海外の日本学科の学生諸君、教授の方々との新しい橋作りをするお手伝いしようと決心した。

集まったのは7人。自分たちで旅行プランを立て、日本語だけでどれだけ通れるか。節約ならどんな宿でもいい。現地ガイドは女性であること、我々7人の20キロのトランクをキャスターに積んでくれる人、日本文化に理解ある人など、かなり難しい幾つかの条件を海外生活をしたことのある青年社員は通してくれた。個人ネットを貸してくれたのだ。

ウッジ国立民族考古学博物館の館長吉田教授、旧知の間柄である。その一室が日本文化展示室。前回の訪問では俳句色紙、短冊などを寄贈してきた。

今回は万葉衣装を呈し、のぞまれて東歌の朗詠。鈴木しどみ氏の琵琶演奏、私の墨筆実演を行った。

また、俳句の軸物の数多を贈り、待ち受けていた人々の手で飾られた。そして皆さん日本語を解し、ハイクも作られている。夕食も用意されている。私は持参した切子模様の小色紙に染筆をはじめた。

およそ1時間半で70枚。コーヒーを持って来るが、水を持ってきてくれる人はいない。各々たのしい話ではずんでいた。一人々々違う句を書いていた。「ほとんどは歳時記に採用されている句です」と吉田先生は話され、みんな何故かしずかになった。

ここで自業自壊がはじまった。

私は「**手を通す春の外套別の夜へ** 明倫」染筆した色紙をかざし、説明した。“手を通す春の外套”吉田先生も私も手ぶりを入れている。だが「別の夜へ」これが何としても伝わらない。私は小指と親指を立てそれを合わせ「エスケープ、エスケープ」と二度言った。どっと笑いがきた。それからが大変。

中老女性のキスがくるはくるは。「水をくれ、水をくれ」私は呼んだ。チャーミングな中老女性がコップで持ってきてくれた。一時半の立ちづくしの仕事のあとでは足りん。“汗まみれに男を稼がせ、コッパーパイの水では足りんだらう”吉田先生は笑い乍ら話された。

その夜ホテル迄の4料の道をだれ言うとなしに多く

の人が一緒に歩いてくれた。ある中老女性が、日本の桜さくら弥生の空は・・・と歌いだす。みんなが歌う。「上を向いて歩こう」が日本語で始まった。「北国の春」も繰り返し歌った。

翌日は、紡績工場見学の許可が出て2台の車で出発する。車は郊外をかなり走った。色々な工場がある。何と吉田教授夫人はかつてこのデザイン主任を勤められていたという。そのお陰で私達は見学できたのであった。あの機械音、あの布地、原糸の配置具合。あの中に居られた幸福が今こみ上げてくる。

「短日の織機の生めり赤や金 明倫」



ウッジ織物工場にて (筆者)

オスロにて三泊。近くにグリーグやイプセンが通ったグランドホテルがあるが私共はビジネスホテル。ロビーに湯沸かし器があって24時間コーヒーもOK、それにワッフル焼き器もあり、小麦粉も溶いてある。バター、ジャムの種類も多い。夜の街角では女性たちが車に相乗りしてきて、辻に立つ。どの人も2メートル近い長身揃い。「ヤポンスキー(日本)」ロシア語で話しかけられた。とても寒かった或る晩、街角に立っている例の女性たちが通りからホテルの中を指している。そこでロビーでワッフルを二枚焼き、ジャムをたっぷりつけて広告紙に包んでもって行ってやった。ボスらしい女が額にキスをしてくれた。有難いことに麻薬の匂いはなかった。オスロの夜風には樅の匂いがした。

「ともだちにワッフル焼いて冬ごもり 明倫」

よだ・めいりん

(日本伝統俳句協会理事/「夏至」主宰)

Republic of Poland
ポーランド共和国
国歌のお話

ポーランドの国名は、丘ではないが平野という意味の「POLE」からきており、「平野の国」という意味の国号となっています。



国歌「栄よわが国」

作詞 J ósef Wybicki

作曲 不詳



---- 昨年10月、当協会の懇親会でポーランドの国歌を教えてもらい、みんなで歌いました。マズルカの舞曲を取り入れたその曲の美しさに感動しました。

その後、「国歌のことも書いた本を見つけたので」と1冊の本を会員の方から紹介されました。

その一部をご紹介します。

「東ヨーロッパの歴史は、ひと口にいて、民族興亡の歴史だといえる。中でもポーランドは約200年の長きにわたって、国家興亡の歴史を繰り返している。その間、幾多の著名な詩人、作曲家が出て優れた愛国歌、国民歌が数多く生み出されている。

ポーランドは民族音楽の宝庫である。もちろん音楽はスラブ系だが、なんといってもロシアとは異質なものである。なぜなら、カトリック教会の影響と共に、早くから西ヨーロッパ音楽の洗礼を受けていたからである。

ショパンも、マズルカやポロネーズなど、祖国の民族音楽を芸術化した名作をたくさん書いている。国家になった歌曲は『ダブロフスキーのマズルカ』といわれ、歌詞はユーゼフ・ヴィビッキー (J ósef Wybicki) によって作詞されたが作曲者はいまだに明らかにされていない。

作詞者ヴィビッキーは、ポーランド国家の滅亡(1795年)前から愛国的文人および政治家として知られ、ポーランド滅亡後はフランスに亡命後、同じく亡命中のダブロフスキー将軍を援けて、祖国再興のためのポーランド人部隊の組織に尽力し、のちの帰国、最後はポーランド王国の大審院長官を勤めた人物。

この国歌は、1794年の独立改革戦争から生まれたといわれている

---- さらに詳しく記載されていて数奇な運命の中で生まれた国歌のおこりにひきこまれます。

「時は西暦1794年。その前年の露独両国による第2回ポーランド分割。国民は時の貴族政府と異国の

侵略者たちに対して救国の大叛乱を起こした。総大将として采配を振るったのは、フランスの陸軍大学を卒業し、アメリカの独立戦争に参加して、同戦争史に輝かしい1ページを残し、帰国後もロシア軍との戦い(1792年)に大活躍をしたタデウシ・コシチューシコであった。

だが、ポーランド愛国者たちの最後の蜂起も、わずかに当初幾つかの個々の勝利をおさめただけで、半年あまりで弾圧され、コシチューシコ自身は負傷の上ロシア軍に捕えられ、ペテルブルグの牢に入れられてしまった。それだけではない。この叛乱がかえってアダとなり、翌年露、独、墺3国によって第3回分割が行われ、ポーランド国家は遂にヨーロッパ地図の上から完全に抹殺されてしまった。

事志と違ったポーランドの愛国者たちはあいついで外国に亡命した。ヤン・ヘンリック・ダブロフスキー将軍も、その一人で、パリに亡命し、そこで再挙の機をうかがっていた」

---- まもなく独、墺の間に戦争が始まり、ナポレオンが仏軍総司令官としてイタリアに出陣することに・・・

「ダブロフスキーは好機いたれりと、ナポレオンに対し、ポーランド部隊を組織し、仏軍に協力してオーストリアを打ち破りたい旨を申し入れた。

ナポレオンは彼の希望をいれダブロフスキーはポーランドの愛国者たちに決起の檄を飛ばした。やがてダブロフスキーの下には、各地に亡命中のポーランド人ばかりでなく、露、独、墺3国の支配下にあった旧ポーランドからの参加者もぞくぞく集まってきた。

この混じりつけのない純粋なポーランド部隊は、破竹のいきおいのナポレオン軍の中でも、特に勇敢な部隊として名声があがり、ナポレオンはこの部隊を信頼して、しばしば最も危険な部署に差し向けたが、部隊はいつもナポレオンの期待にそむかぬ働きをしたといわれている」

---- 異郷の野に、山に、ひたすら祖国の再興を念じながら、昼は硝煙弾雨の中をかけまわり夜はかがり火をたいて仮寝の夢をむさぼった亡国ポーランドの志士たち。その志士の1人であったヴィビッキーが、日頃のたしなみで歌詞を作り、仲間の誰かがそれに曲をつけたものだったのです。

ダブロフスキー部隊の全員が、お互いを鼓舞するため歌い合った歌だったのです。

なんとその歌が、今日でもなお、ポーランドの国歌として生きているのです。

正式国歌となったのは1927年のことです。

(参考文献:「国のシンボル」頌文社 藤沢 優著)

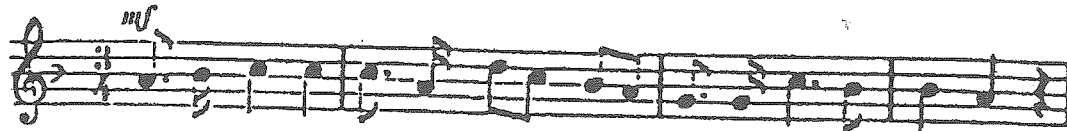
民間 多伊子(うじま・たいこ)

ポーランド国歌 **Jeszcze Polska nie zginęła**
Hymn Narodowy (1797)

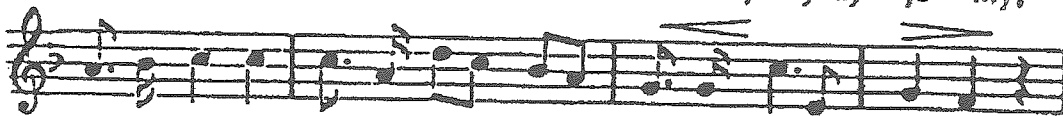
Lyrics: Józef Wybicki

Unknown composer

Uroczyste z zapalem
 (M.M. ♩ = 92)



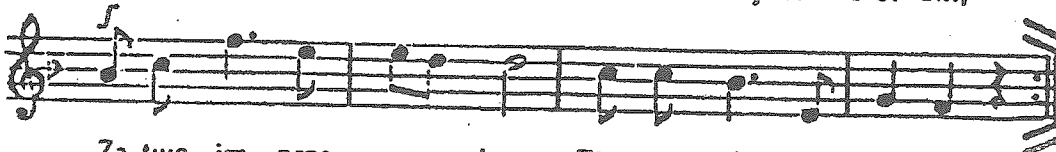
1. Jesz-cze Pol-ska nie zgi - nę - ła, kie - dy my ży - je - my,



Co nam ob - ca prze-moc wzię - ła Sza - blą od - bie - rze - my.



!-1. Marsz, marsz Dą - bro - wski, Z zie-mi wło-skiej do Pol-ski,



Za two - im prze - wo - dem Złą-czym się z na - ro - dem.

Jeszcze Polska nie zginęła,
 Kiedy my żyjemy,
 Co nam obca przemoc wzięła,
 Szablą odbierzemy.

ポルスカいまだ滅びず
 われら生きるかぎり
 外つ国の力に奪われしもの
 われら剣もてとり戻さん

Marsz, marsz, Dąbrowski,
 Z ziemi włoskiej do Polski!
 Za twoim przewodem
 Złączym się z narodem.

進め、すすめ、ドンプロフスキ
 イタリアの地よりポルスカへ
 汝の指揮のもと
 われら国の民と結ばれん

Przejdziem Wisłę, przejdziem Wartę,
 Będziem Polakami,
 Dał nam przykład Bonaparte,
 Jak zwyciężać mamy.

ヴィスワを越え、ヴァルタを渡り
 われらポルスカの民とならん
 ポナパルトのためしにならない
 われら勝利をば得ん

Marsz, marsz...

進め、すすめ

(1987:坂東 宏編:ポーランド入門)



今年度の活動予定

2011年1月24日(月)に第2回運営委員会を開催。当協会の今年度の主催行事について話し合いました。変更の可能性があります。以下は現時点で決まっている予定です。今後のPOLE紙面等でご確認ください。

- ◆ <第55回例会>ポーランド現代映画セレクション
会員は1作品無料 2004-2009
 4月16日(土) 17日(日) 北大学術交流会館講堂
- ◆ ピアノコンサート **会員無料**
 6月4日(土) 札幌サンプラザホール
- ◆ <第56回例会>ポーランド文学作品朗読会 &
 ポーランド料理講習会 **材料費負担**
 6月18日(土) 北海道大学クラーク会館

※秋には大規模な駐日ポーランド共和国大使館との共催イベントを予定。日程の詳細が決まりましたら、追ってご案内いたします。

個人情報(プライバシー・ポリシー) についての重要なお知らせ



北海道ポーランド文化協会(以下「当協会」)は、寄せられた①お名前②ご住所③電話番号④メールアドレス等、個人情報保護の重要性を認識し、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めています。

- 1) 個人情報の収集と利用について:当協会は、収集した個人情報を会員に明示した収集目的の達成に必要な範囲のみ、会員の権利に十分配慮して利用します。
- 2) 個人情報の管理について:当協会は、個人情報の正確性を保ち、これを安全に管理いたします。又、個人情報を持ち出し、外部へ送信する等により漏洩させません。
- 3) 個人情報の開示・訂正・利用停止・消去について:当協会は、会員から自らの個人情報について、開示・訂正・利用停止・消去等の要請を受けた場合、合理的な範囲で速やかに対応します。

【ご確認&ご承諾】

<会員全員に名簿を配布して交流を活性化してほしい>との要望が昨年から寄せられています。それに伴い今後、名簿を会員全員に配布させていただく予定です。

開示制限(一部)を望む方は、恐れ入りますが<2011/3/31までに事務局または運営委員>へご連絡をお願いします。

期日までご連絡がない場合は、現在いただいている

①お名前 ②ご住所 ③電話番号 ④メールアドレス等を配布用名簿の作成に使わせていただく予定です。

今後とも、当協会へのご支援とご理解を何卒宜しくお願い申し上げます。ご意見、ご質問がございましたら、お寄せ下さい。

---訃報のお知らせ---

長い間、当協会でご活躍なさっていたピアニストの渡辺卓さんが、2月1日ご逝去されました。ご冥福をお祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。

会費の納入はお済みですか？

(2010年10月～2011年9月分)

当会は、皆様からの年会費によって運営されています。

上記の年度分の会費の納入を至急宜しくお願いいたします。



【郵便振替口座】

02740-5-19735

北海道ポーランド文化協会

- ◆ 普通会員(年額)3000円
- ◆ 維持会員(年額1口)5000円
- ◆ 学生会員(年額)1500円

札幌市市民活動 サポートセンターを ぜひご利用ください。



前回のポーレでご案内させていただいたように、当協会は市民活動サポートセンターに登録しています。会議・打ち合わせコーナーやパソコン、印刷機器などを利用できます。

JR・地下鉄札幌駅直結で、おしゃべりやコーヒープレイクに最適な場所ですので、ぜひお気軽にご利用ください。

利用申込の記入の際、当協会の利用IDが必要になります。事務局までご連絡ください。会議室、印刷機器の利用(要予約)。打ち合わせコーナー(予約不要)。

【交通案内】北區北8条西3丁目。札幌エルプラザ2階。有料駐車場あり。札幌駅北口地下通路出口12番から、建物の中に直結。

POLE

第68号

ポーレ編集委員会

氏間 多伊子/栗原 朋友子
 小林 美保/越野 剛
 佐光 伸一/ラファウ・ジェブカ

原稿を随時募集!

<旅の思い出><友人との交流><好きな映画><好きな作家>ポーランドに関することならテーマ、字数は自由です。

北海道ポーランド文化協会会誌

POLE 第 68 号 (2011 年 2 月)

目 次

水田香「海外研修 2010 年『第 16 回ショパン国際ピアノコンクール』第 3 次予選を鑑賞して 一報告と感想」	1
ポーランド現代映画セレクション 2004-2009 [案内]	3
[第 24 回 2010-2011 年度] 総会 [&懇親会] 開催される [2010.10.31]	4
津田晃岐〈ポーランドだより 2〉「変わりゆくポーランドのクリスマス休暇」	6
依田明倫「ショパン生誕二百年記念俳句俳画展に参加するワルシャワ・ウッジ・オスロ訪問 の旅～2010 年 10 月 13-20 日」	9
氏間多伊子「ポーランド共和国国歌のお話」	10
[事務局より] 今年度の活動予定：ポーランド現代映画セレクション 2004-2009、ピアノコン サート、ポーランド文学作品朗読会&ポーランド料理講習会、札幌市市民活動サポートセ ンターをぜひご活用ください、訃報：ピアニスト渡辺卓さん [2011.2.1 逝去]	12